

「執務の厳正について」について

Z 1 2

2008.12.16

J R 東海 労 東 二 運 分 会

所員のみなさん！

所長掲示「執務の厳正について」が12日付けで出された。しかし、わずか数時間で撤去されたことを知っているだろうか。月光仮面（古い？知らない？）も驚く、電光石火の早業だ。古くは06年12月の「セキュリティの再徹底」という所長掲示が6日目にして忽然として消えた事があったが、この記録を大きく塗りかえた。一体何があったのか全く分からない。

掲示を確認していないみなさんのために概要を紹介すると「執務の厳正について

過日最終乗務に30名の出迎えの者が集まり、ホーム上はお客様に迷惑をかけてしまうような光景であった。ホーム上での秩序維持と、運転士の業務の妨げにならないように管理者が立ち会っていたが、その管理者から聞くに堪えない暴言を浴びせられたとの報告があった。ホーム上での暴言発言について、どのような理由があるにせよ、その行為は乗務員以前に社会人としての、自覚を疑わざるをえない。勤務時間外とは言え、上司に暴言を吐くという事は許しがたい行為である。このような行為は二度と起こさないよう警告する」というものだ。

これはまぎれもなく、11月29日に行った「還流」で駅へ転勤となる加藤安範さんの転勤前の乗務終了をホームで家族と共に組合員が出迎えた時のことを指している。

（加藤さんは、必ず運輸所に戻ってくるという強い決意が有ります。決して「最終乗務」ではありません。東海労は本人の意志を無視した不当転勤に反対し、運輸所へ戻るために共に闘うことを確認しています）

所長の言う「お客様に迷惑をかけてしまう」は、「30名の出迎え」か、標識確認を終えた父に息子さんが花束を渡そうとしたことで、「暴言発言」とは「立ち会っていた」管理者に、なぜ花束を渡してはいけないのかと問い質したことだ。

もちろん全員入場券を買って入場していた。この状況のどこを指して「執務」と言っているのか、はなはだ疑問だ。

はたしてお客様は、異常を感じたのか？ 迷惑だったのか？ むしろ、ご苦労様でしたと見えたに違いない。それが社会人の見方だと思う。期待しすぎだろうか。

それにしても無慈悲さを助役に問い質したことを「社会人としての、自覚を疑わざるをえない」とは立派な表現だが、そのまま所長に、あなたこそ社会人として疑われますよ、とお返しする。それとも、社会人としての判断から、恥ずかしい掲示だったと、気付いての早業だとしたら大目に見ることにする。松本所長、本当の理由を所員に明らかにしなさい。